

最終年度生の「カウンセリング実務士」必修科目の 履修経過とコミュニケーション力の育成

山下京子*

(2020年12月24日 受理)

Course Progress and Communication Skills for the Final Year's “Certified Mental Care Worker” Compulsory Courses

Kyoko YAMASHITA*

This article takes up the course for “Certified Mental Care Worker” in the final year, and reports on the progress of the required courses. The students and I encountered many unexpected events, such as a sudden change in class staff and the implementation of distance learning to prevent of infection spread of COVID-19. Did the compulsory subjects for “Certified Mental Care Worker” really improve the communication skills of the students? One way to do this is to use the rubric evaluation conducted at our university. In conclusion, it became clear that a conceptual definition and model of communication skills were needed.

Keywords: Certified Mental Care Worker カウンセリング実務士, communication skills コミュニケーション力, COVID-19 新型コロナウイルス感染症

1. はじめに

本学科は、2018年度に幼児教育心理学科から児童教育学科に名称変更し、大幅なカリキュラム変更を行った。大きな変更点は、取得可能な免許・資格であり、幼稚園1種免許状、小学校1種免許状、保育士資格は2018年度以降も取得可能な一方、カウンセリング実務士と認定心理士の資格取得のために必要なカリキュラムは廃止された。カウンセリング実務士資格取得の最終学年にあたる2017年度入学生においては、次の2つの想定外の出来事により、従来とは異なる資格取得必修科目の履修経過となった。出来事の一つは、2020年4月、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、2020年度前期授業が遠隔授業になったこと、学内実習の中止や学外実習が延期されたことであった。もう一つは、2018年度前期途中で、必修科目「カウンセリング概論Ⅰ」の担当者の急遽変更と、2019年度後期の必修科目「カウンセリング演習Ⅱ」の担当者と授業計画の変更であった。資格取得最終学年は、それまで実施してきたカウンセリング実務士養成とは多少異なるプロセスを得て、無事2020年度前期の必修科目「カウンセリング実習」を修了した。本稿では、最終年度生の履修経過を報告し、非認知能力のひとつであるコミュニケーション力の育成の観点から、学習成果の評価方法について考察を加えたい。

* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科教授

2. 2017年度入学生の本学におけるカウンセリング実務士の必修科目の履修経過について

カウンセリング実務士は、全国大学実務教育協会の認定資格の一つであり、「人間の心理メカニズムとはどういうものかを理解するとともにカウンセリングの場面で、もちいられるさまざまな技法を習得し、心の問題を解決したり、人間関係を改善するなど、現代のストレス社会におけるよきアドバイザーです。」(全国大学実務教育協会)¹⁾と説明されている。本学では、必修科目として、2年次前期「カウンセリング概論Ⅰ」、後期「カウンセリング概論Ⅱ」、3年次前期「カウンセリング演習Ⅰ」、後期「カウンセリング演習Ⅱ」、4年次前期「カウンセリング実習」を置いている。「カウンセリング概論Ⅰ」「カウンセリング演習Ⅱ」を、非常勤講師の担当とし、残りの3科目は筆者の担当であった。なお、4年次前期の「カウンセリング実習」については、前期に講義を行い、夏季休業中に学外実習、後期の学内行事への参加を含んでいた。

2017年度入学生のうち、2年次(2018年度)前期に「カウンセリング概論Ⅰ」を受講した学生は32名であった。2018年4月通常通り前期科目として開講されたが、3回の授業の後、急遽担当者変更をせざるを得ない状況に陥る。突然の訃報であった。筆者はもちろんのこと、受講生の衝撃は大きく、にわかには信じがたい状況であった。「カウンセリング概論Ⅰ」の授業計画を表1に示した。すでに前期が始まり1か月以上経過していること、15回の授業のうち残り12回の授業を担当することや、授業内容がエンカウンター・グループを主とすることなどから、担当者探しには時間を要した。この間、受講中の学生から、講義の再開について何度も問い合わせを受けた。6月中旬になって、ようやく、代替の担当者が決定し、変則的な形で集中講義として、残り12回を開講した。なお、2018年度後期に開講予定であった3年次生対象の「カウンセリング演習Ⅱ」については、県外からエンカウンター・グループを専門とする人に、特別に集中講義で担当していただけたことになった。

2018年度前期の「カウンセリング概論Ⅰ」の授業内容は、後任の授業担当者が可能な限りシラバスに沿うように考慮して、後任担当者の専門である子育て支援も取り入れた形で実施された。32名の受講生が単位修得した。2018年度後期の「カウンセリング概論Ⅱ」は例年通り、筆者が担当した。受講者数は27名であり、そのうち26名が単位修得した。「カウンセリング概論Ⅱ」の到達目標は、①精神疾患に関する基礎的な知識を習得し、メンタルヘルスの重要性を説明することができる、②心理学的援助に関する基本的な理論を学習し、効用と限界について述べることができる、③今日の社会において必要とされているメンタルヘルスの取組について、社会的問題との関連で考察することができるの3点であった。2019年度前期「カウンセリング演習Ⅰ」も筆者の担当であり、予定通り、シラバスに従って実施された。この授業は、ロールプレイを通しての応答訓練を主としており、到達目標は①心理学をベースにした応答ができる、②ケースの見立てができる、③事例に適切な臨床心理学的方法の選択を提案できるであった。3年次前期に配置された「カウンセリング演習Ⅰ」から、卒業要件単位外科目となり、資格取得希望者のみ履修することになり、2019年度履修者数は16名であった。2019年度後期の「カウンセリング演習Ⅱ」は、2018年度前期「カウンセリング概論Ⅰ」の後任の担当者が担当し、従来の授業内容に若干の修正を加え、受講者数16名で開講された。表2に2019年度後期「カウンセリング演習Ⅱ」のシラバスの概要を示した。従来の授業内容に、子育て支援プログラムが取り入れられており、保育者養成という学科特性に合わせたものとなっていた。

受講者16名が、そのまま2020年度前期「カウンセリング実習」の履修を希望し、例年のように、入学式時の新入生を支援する「春のキャンパス・サポーター活動」に申し込んでいた。「キャンパス・

最終年度生の「カウンセリング実務士」必修科目の履修経過とコミュニケーション力の育成

表1 カウンセリング概論Ⅰのシラバス

開講年度・学期	2018・前期
学年	2
担当教員	岩村 聡
学部／学科	人間生活学部 幼児教育心理学科
授業形態	①講義（知識伝達） ②演習 ③実験・実習 ④ディスカッション、ディベート A：グループワーク有り
授業目的	<p>カウンセリングの本質は、「受容」にあります。 カウンセリングは、自分も人も受け入れ・大切にして、自分に対しても素直になり、聞き上手になって、人のいいことや気持ちを受け止め、理解しようとすることをめざします。 カウンセラーや教師や保育士にはもちろん、友達にも恋人にも親にも、店員にも事務員にも銀行員にも、集団のリーダーや管理者にも、その他の人と接するさまざまな職業などに、つまり、人間誰にとっても役立つ学問といえるでしょう。この授業では、さまざまな相談事例や、教育実践例なども使いながら、カウンセリングについての基本的理解を持ってもらうとともに、受講者の皆さんに、「傾聴・受容力」や「あたたかい集団を育てる力」（そのために必要な「自己開示力」や「発表力」）など、日常の対人関係に役立つ力を伸ばしてもらうことをめざします。</p>
到達目標	
1	<p>「カウンセリング」（グループ・カウンセリングを含む）の基本的および詳細な特徴が、より理解できるようになること。</p> <p>Learning Effort 4 理解が最高に前進したと評価できること。</p> <p>Learning Effort 3 理解がかなり前進したと評価できること。</p> <p>Learning Effort 2 理解が普通に前進したと評価できること。</p> <p>Learning Effort 1 理解が、不十分だが少しは前進したと評価できること。</p>
2	<p>「傾聴・受容」が、さらに上手にできるようになること。</p> <p>Learning Effort 4 傾聴・受容力が最高に前進したと評価できること。</p> <p>Learning Effort 3 傾聴・受容力がかなり前進したと評価できること。</p> <p>Learning Effort 2 傾聴・受容力が普通に前進したと評価できること。</p> <p>Learning Effort 1 傾聴・受容力が、不十分だが少しは前進したと評価できること。</p>
3	<p>「自己開示」や「発表」などが、さらに上手にできるようになること。</p> <p>Learning Effort 4 「自分の話」などを肯定的関心を持って聞く力が最高に前進したと評価できること。</p> <p>Learning Effort 3 「自分の話」などを肯定的関心を持って聞く力がかなり前進したと評価できること。</p> <p>Learning Effort 2 「自分の話」などを肯定的関心を持って聞く力が普通に前進したと評価できること。</p> <p>Learning Effort 1 「自分の話」などを肯定的関心を持って聞く力が、不十分だが少しは前進したと評価できること。</p>
授業計画	
1	<p>オリエンテーション、話しあい「私という人」</p> <p>15回の授業について説明する。後半は、小グループで、自己開示の話しあいをする。到達目標：①②③ ・課題1（予習）シラバスを読んでおくこと（15分）。 ・課題2（復習）オリエンテーションの内容を見直し、話しあいの感想などを整理しておくこと（30分）。</p>
2	<p>「話のいろいろな聞き方」デモンストレーション、紙上応答練習</p> <p>話のよい聞き方・よくない聞き方の具体例を読み、聞き手の態度や応答のしかたによって、話し手はさらに話したい気持ちになるか、この人には話したくない気持ちになるかを学ぶ。後半は「要約」などの練習を行う。到達目標：①② ・課題1（予習）シラバスを読んでおくこと（15分）。 ・課題2（復習）レジメを読み直し、「紙上応答練習」は、「回答参考例」などを読んでおくこと（30分）。</p>
3	<p>カウンセリングの事例「登校拒否の女子中学生」、ロールプレイ・オリエンテーション</p> <p>「逐語記録」を読んで、プロのカウンセラーの態度の特徴などを理解する。次回から行う「カウンセリング・ロールプレイ」の進め方を説明する。到達目標：①②③ ・課題1（予習）シラバスを読んでおくこと（15分）。 ・課題2（復習）「事例」の特徴や、「ロールプレイ」の進め方を見直しておくこと（30分）。</p>
4	<p>ロールプレイ準備、デモンストレーション、ロールプレイ（1）</p> <p>受講者全員2人1組になり、1回は「話し手」を1回は「聞き手」になって、カウンセリング・ロールプレイの実習を行う。到達目標：①②③ ・課題1（予習）シラバスや、前回の「ロールプレイ・オリエンテーション」のプリントを読み、ロールプレイのための「話題」の準備をしておくこと（15分）。 ・課題2（復習）ロールプレイの経験をふり返しておくこと（30分）。</p>
5	<p>「不登校の解決に成功したM先生の取り組み」（教育実践例）</p> <p>不登校小学生の事例を読んで、担任教員などが、不登校児童やその保護者に対して、さらによりよい学級作りに向けて、どんな取り組みをすることが望ましいかを考える。到達目標：①③ ・課題1（予習）シラバスを読んでおくこと（15分）。 ・課題2（復習）M先生の取り組みの特徴や、不登校のN子やクラスの変化を見直しておくこと（30分）。</p>
6	<p>ロールプレイ（2）</p> <p>カウンセリング・ロールプレイの2回目を行う。到達目標：①②③ ・課題1（予習）シラバスを読み、ロールプレイのための「話題」の準備をしておくこと（15分）。 ・課題2（復習）ロールプレイの経験をふり返しておくこと（30分）。</p>

7	「学校とスクールカウンセラー」 不登校中学生の事例を読んで、スクールカウンセラーや教員や保護者が、児童生徒の不登校に対して、どんな取り組みをすることが望ましいかを学ぶ。到達目標：① ・課題1（予習） シラバスを読んでおくこと（15分）。 ・課題2（復習） レジメを見直し、話しあいの感想などを整理しておくこと（30分）。
8	カウンセリングをどう生かすか、話しあい「私のあゆみ」 カウンセリングについての「中間まとめ」の講義と、小規模なグループ・カウンセリング。到達目標：①②③ ・課題1（予習） シラバスを読み、「話しあい」のための準備をしておくこと（15分）。 ・課題2（復習） カウンセリングの「まとめ」を見直し、話しあいの感想などを整理しておくこと（30分）。
9	「母親面接と適応指導教室」、話しあい「私の小学校経験」 不登校生徒のために行った、母親とのカウンセリングや、適応指導教室による援助の事例を読み、こうした援助の効果等について学ぶ。後半はグループ・カウンセリングの2回目。到達目標：①②③ ・課題1（予習） シラバスを読み、「話しあい」のために、自分自身の「小学校経験」をふり返しておくこと（15分）。 ・課題2（復習） レジメを見直し、話しあいの感想などを整理しておくこと（30分）。
10	カウンセリングの集団への応用（グループ・カウンセリング） エンカウンター・グループ（グループ・カウンセリングの一種）の事例と解説を読み、カウンセリングの考え方ややり方を集団に生かすとしたら、どのようなことが可能かを学ぶ。到達目標：①③ ・課題1（予習） シラバスを読んでおくこと（15分）。 ・課題2（復習） レジメを読み直しておくこと（30分）。
11	ビデオ「鋼鉄のシャッター」 地域紛争の解決に貢献し、関係者がノーベル平和賞を受賞したエンカウンター・グループの記録映画を鑑賞し、集団やコミュニティに役立てられたカウンセリングについて学ぶ。到達目標：① ・課題1（予習） シラバスを読んでおくこと（15分）。 ・課題2（復習） ビデオを見ての感想などを整理しておくこと（30分）。
12	「クラスが明るくなったT先生の試み」（教師による学級運営の事例） 中学校の学級担任の実践記録を読んで、カウンセリングの考え方や方法を生かした学級運営について学ぶ。到達目標：①②③ ・課題1（予習） シラバスを読んでおくこと（15分）。 ・課題2（復習） レジメを見直し、自分自身の感想や、グループ・ディスカッションで出た意見などを整理しておくこと（30分）。
13	「緘黙・不登校の女兒」 緘黙・不登校の事例を読んで、スクールカウンセラーや、小学校関係者の取り組みについて学ぶ。到達目標：①②③ ・課題1（予習） シラバスを読んでおくこと（15分）。 ・課題2（復習） レジメを見直し、スクールカウンセラーや小学校関係者の取り組みやその成果などをふり返り、自分自身の感想や、グループ・ディスカッションで出た意見などを整理しておくこと（30分）。
14	「アゲハチョウとM先生の家族」 テーマは「思いやり」。道徳の授業教材を想定した絵ものがたりを読んで、感想などを交流し、登場人物の気持ちなどを推察する課題に答える。到達目標：①②③ ・課題1（予習） シラバスを読んでおくこと（15分）。 ・課題2（復習） 絵ものがたりを読み直し、「読者への質問」や、「そこに表されているもの」や「回答例」を見直し、グループで出た意見などをふり返って整理しておくこと（30分）。
15	「あたたかい集団をつくるには」、話しあい「これからの私とカウンセリング」 「カウンセリングの集団への応用」のまとめ。後半は、15回の授業のふり返りと話しあい。到達目標：①②③ ・課題1（予習） シラバスを読んでおくこと（15分）。 ・課題2（復習） レジメを見直し、15回の授業への自分自身の感想や、グループで出た意見などを整理しておくこと（30分）。
16	試験
授業成果	
受講によって、以下のような力が発展することをめざす。 ①「カウンセリング」（グループ・カウンセリングを含む）の基本的、および詳細な特徴が、より理解できるようになる。 カウンセリングがよく利用される専門領域や応用場面についての知識や理解を持つようになる。 カウンセリングに関係の深い専門用語や人名についての知識や理解を持つようになる。 ②「傾聴・受容」が、さらに上手にできるようになる。「自分の話」などを肯定的関心を持って聞けるようになる。 ③「自己開示」や「発表」などが、さらに上手にできるようになる。	
成績評価の方法	
講義や実習への参加状況や、試験によって行います。毎回の授業終了時に「授業感想レポート」の提出を求めます。4回以上、授業終了時に「授業感想レポート」を提出しなかった場合は、合格点は上げられません。（配点は、講義や実習への参加状況が50%、試験が50%。「授業感想レポート」未提出は1回につき10点減点、消極的な授業態度は1回につき8点減点とします。）試験は、「カウンセリングの特徴と役割について述べてください」（カウンセリングを、誰が、どんな相手に対して、どのような場で、活用することが望ましいか、できれば何種類かを具体的に説明してください。）という論述（500字程度）問題と、2－3の小問題を予定しています。	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
授業ごとに書いてもらう「感想カード」は、次の授業の冒頭に主なものフィードバックする。	
テキスト (なし)	
参考書 「カウンセリングの実践問題」河合隼雄 誠信書房（ほか、授業の中で紹介の予定）	

最終年度生の「カウンセリング実務士」必修科目の履修経過とコミュニケーション力の育成

表2 カウンセリング演習Ⅱのシラバス

開講年度・学期	2019・後期	
学年	3	
担当教員	東岸 和子	
学部／学科	人間生活学部 幼児教育心理学科	
備考	実務経験のある教員による授業科目	
授業形態	①講義（知識伝達） ②演習 ④ディスカッション、ディベート A：グループワーク有り	
授業目的	心理学的な支援にはグループを対象にするものもある。集団へのアプローチの理論や方法について学びながら、カウンセリングの基本的な姿勢、ファシリテーションの技術を身につけることを目的とする。	
到達目標	<p>1 カウンセリングの基本姿勢を身につける。</p> <p>Learning Effort 4 基本姿勢が身に付き応用ができる。</p> <p>Learning Effort 3 基本姿勢が身に付き、他者の話を深く聴ける。</p> <p>Learning Effort 2 基本姿勢が身についている。</p> <p>Learning Effort 1 基本姿勢が不十分だが、少しは前進したと評価できる。</p> <p>2 グループへのアプローチの方法やアプローチの有用性を理解する。</p> <p>Learning Effort 4 方法や有用性を理解しグループが進行できる。</p> <p>Learning Effort 3 グループへのアプローチの有用性について理解している。</p> <p>Learning Effort 2 グループへのアプローチの方法を理解している。</p> <p>Learning Effort 1 グループへのアプローチの方法を知っている。</p> <p>3 プログラムに参加して、自己理解・他者理解を深める。</p> <p>Learning Effort 4 プログラムに参加し、自己理解・他者理解が進んだ。</p> <p>Learning Effort 3 プログラムに参加し、自己理解が進んだ。</p> <p>Learning Effort 2 プログラムに参加し、他の参加者と協働できた。</p> <p>Learning Effort 1 プログラムに参加した。</p>	
授業計画	<p>1 授業の進め方について説明する。 講義の目的や進行の仕方などを説明する。また、カウンセリングに必要な基本姿勢を用いて傾聴するロールプレイを行う。 到達目標：① 事前学修：カウンセリングの基本姿勢とは何かについて復習しておく。（30分）事後学修：自らのカウンセリングの基本姿勢をチェックし、課題を見つける。（30分）</p> <p>2 子育て支援プログラムについて学ぶ（講義）① カナダで生まれた Nobody's Perfect プログラムの考え方や内容について講義する。到達目標：② 事前学修：事前に配布する資料を通読してくる。（30分）事後学修：授業中に示した資料を通読し、プログラムを計画する。（60分）</p> <p>3 子育て支援プログラムについて学ぶ② プログラムに沿って内容を計画し、ロールプレイを行う。グループでの支援を体験する。到達目標：①②③ 事前学修：プログラムの内容・進行について資料を通読してくる。（30分）事後学修：ロールプレイの反省をまとめる。（30分）</p> <p>4 子育て支援プログラムについて学ぶ③ 発達障害児を持つ親支援プログラムについて考え方や内容について学ぶ。（講義）到達目標：② 事前学修：配布された資料を通読してくる。（30分）事後学修：プログラムの内容についてまとめる。（30分）</p> <p>5 子育て支援プログラムについて学ぶ④ 親支援プログラムに沿って計画し、ロールプレイで体験する。到達目標：②③ 事前学修：プログラムの内容を復習しておく。（30分）事後学修：体験して気づいたことをまとめる。（60分）</p> <p>6 自助グループについて学ぶ・自らを語るということ（講義）① 自助グループの種類や内容について知り、自らを語るということを考える。到達目標：②③ 事前学修：配布資料を通読してくる。（30分）事後学修：授業の内容をまとめる。（60分）</p> <p>7 自助グループについて学ぶ② 不登校児童生徒の保護者を対象としたグループについて、記録等を読みながら進める。到達目標：② 事前学修：資料を通読してくる。（30分）事後学修：授業の中で理解したことをまとめる。（30分）</p> <p>8 自助グループについて学ぶ③ 自らを語る体験をする。グループを進行するときの姿勢について学ぶ。到達目標：①②③ 事前学修：進行する姿勢について資料を通読してくる。（30分）事後学修：自らを語った体験についてまとめる。（60分）</p> <p>9 自助グループについて学ぶ④ 自らを語る体験をする。グループに参加したりグループの進行役を体験する。到達目標：①②③ 事前学修：進行する姿勢について資料を通読してくる。（30分）事後学修：進行した経験・反省をまとめる。参加した体験をまとめる。（30分）</p>	

10	自助グループについて⑤ 自らを語る体験をする。グループに参加したりグループの進行役を体験する。到達目標：①②③ 事前学修：進行する姿勢について資料を通読する。(30分) 事後学修：思考した経験や参加した経験をまとめる。(60分)
11	構成的グループエンカウンターについて学ぶ(講義)① 集団を対象にしたアプローチの方法を学ぶ。到達目標：①② 事前学修：配布した資料を通読してくる。(30分) 事後学修：構成的グループエンカウンタープログラムの調べてくる。(60分)
12	構成的グループエンカウンターについて学ぶ② プログラムを経験する。到達目標：②③ 事前学修：資料を通読してくる。(30分) 事後学修：体験をまとめる。(60分)
13	構成的グループエンカウンターについて学ぶ③ プログラムを経験する。到達目標：②③ 事前学修：資料を通読してくる。(30分) 事後学修：体験をまとめる。(60分)
14	構成的グループエンカウンターについて学ぶ④ プログラムを構成し、実施する。到達目標：①②③ 事前学修：目的に沿ったプログラムを構成し実施計画を立てる。(60分) 事後学修：実施後のまとめを書く。(60分)
15	集団への心理学的アプローチについてまとめ(講義)・試験 これまでの学びをまとめる。これらの理解が到達目標に達しているかを試験する。到達目標：①②③ 事前学習：授業内容に関するまとめをテーマに沿って作成し、提出する。(120分)
授業成果	
①カウンセリングの基本的姿勢について理解し、実践できる。②必要に応じて、グループへのアプローチの方法を実施できるようになる。	
成績評価の方法	
①講義・ロールプレイなどへの参加状況。ロールプレイの様子から習熟度をチェックする。(50%) ②講義後に求める小レポート(30%) ③次回講義までに作成し、提出を求める課題を出す。(20%)	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
授業の中や授業後に教室で行う。	
テキスト なし	
参考書 「完璧な親なんていない! カナダ生まれの子育てテキスト」ジャニス・ウッド・キャタノ著、「構成的グループエンカウンター」國分康孝編他、講義の中で随時紹介する。	

サポーター」は、本学独自のピア・サポート体制である。ところが、2020年2月末の「学校の卒業式・入学式等の開催に関する考え方について(令和2年2月25日現在)」(文部科学省)²⁾に示されるように、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止のために、全国の多くの大学で卒業式や入学式が中止されることになり、「春のキャンパス・サポーター活動」は中止した。その後、事態は好転せず、4月16日全国を対象とした緊急事態宣言³⁾が発令された。他大学同様、本学においても、2020年度前期授業は、約1か月遅れて、遠隔授業を実施することになった。「カウンセリング実習」も遠隔授業による開講となり、シラバスの大幅な変更を余儀なくされた。「カウンセリング実習」の到達目標は、①対人援助の基本的な考え方を理解し、積極的に対人援助を行うことができる、②対人援助の技法を習得し、適切に使用できる、③適切な支援のコーディネートをすることができるの3点であった。シラバスの授業計画では、指定された授業時間に行われる授業以外に、新入生の大学適応を促進させることを目的とした「春のキャンパス・サポーター活動」、本学の「障がい学生高等教育支援室」との共同企画、学外の福祉施設における実習の主な3つの実習が予定されていた。先述したように、入学式の中止により「春のキャンパス・サポーター活動」は中止となり、残りの2つ、「障がい学生高等教育支援室」との共同企画であり、本学の障害学生と協働による毎年11月に開催される大学祭への模擬店の出店と、毎年9月夏季休業中に実施していた5日間の福祉施設実習も中止の可能性があった。このような状況を考慮し、前期の遠隔授業の中で、新入生へのサポート活動を、新入生を対象とした動画作製へ、障害学生へのピア・サポートを、ユニバーサル・デザインを取り入れた学内マップの作製へと変更した。詳細については、山下(2021)⁴⁾に報告している。

学外実習については、2014年度から同じ福祉施設で実施しており、数名ずつのグループに分かれて行っていた。例年、受講生は4年次の初等教育実習や保育実習を終えた後、9月の1か月間のうちの1週間、少人数のグループで福祉施設での実習に参加することになっていたが、今年度は、COVID-19対応のために、全ての実習が延期され、全体のスケジュールが繰り下がったような形になっていた。受講生全員が、9月から11月にかけて、各自異なる実習時期で学外実習に出ることになっており、そのために、カウンセリング実習の学外実習は、そのスケジュールの合間を縫って行うこととした。COVID-19は収束の見通しもない状態であったが、福祉施設からは、今年度が最終という事もある、実習受け入れの通知が来た。4人ずつ1グループとして、10月から11月にかけて、月曜日から金曜日までの5日間の実習を実施した。実習時期については、受講生の初等教育実習の予定を考慮して組んだ。「カウンセリング実習」の授業内容の中で、唯一、例年と同様に実施できたプログラムとなった。

福祉施設での実習のねらいは、「カウンセリングマインドや、カウンセリング技能の向上を目指し、実践的な学習活動能力を養うことを目的とする。」とし、実習内容は、「①利用者と一緒に作業を行うことで、対象者を理解する。②実際の活動を見たり、職員から話を聞いたりすることにより、相談活動におけるカウンセリングマインドの重要性と、実際の支援の在り方を学習する。」であった。受講生は、福祉施設での実習の前に、各自テーマを選択し、テーマについて実習中の記録を取るようになっていた。今回のテーマは、「利用者と職員のコミュニケーションの在り方」「利用者の快適性を追求した支援の在り方」「利用者の特性に配慮した支援の在り方」「利用者への言葉がけ」など、コミュニケーションに関するものが多く、例年と同様であった。

実習のスケジュールを表3に示した。今年度も、例年と同様のスケジュールで実施され、初日の月曜日午前中に施設長の講話があり、最終日の金曜日の夕方に、筆者も参加して実習反省会が開かれた。この他に、毎日、質疑応答のための反省会を開催してもらったり、相談支援の場に陪席させていただいたりした。11月中旬に、4つのグループの施設実習が無事終了した。実習記録について

表3 福祉施設におけるカウンセリング実習の時間割
(実習先で配布された資料をもとに作製)

時間	内容
8時30分まで	出勤・更衣
9時	職員朝礼に参加
9時45分	各階に分かれ、利用者朝礼に参加
～12時	作業に参加・行動観察
12時～13時	利用者と一緒に昼食
13時～15時30分	作業に参加・行動観察
15時30分	掃除・利用者終礼
16時～16時30分	反省会（質疑応答）
16時30分	更衣・退勤

最終日のみ：15時30分から16時 反省会

最終日のみ：16時から16時30分 レポート作成

は、5日分とテーマに関する記録及び考察を提出してもらい、すべて終了となった。

ふり返ってみると、2020年度「カウンセリング実習」を履修した16名の学生は、幼児教育心理学科の最後の入学生であり、2年次の必修科目の履修時から、例年とは異なる出来事に遭遇している。「カウンセリング概論Ⅰ」の授業が始まり、3回の授業を受けたところで、授業担当者の計報に接する。学生の何人かは、弔問に訪れた。喪失体験は、この時だけでなく、同年7月には、広島市豪雨災害で、本学も被災した。キャンパス全体のいたるところ豪雨の痕跡が生々しく残り、本学科の学生が使用している校舎も被災したため、しばらく、教室への立ち入りが制限され、授業教室の変更など緊急対応がなされた。そのような状況下で、「カウンセリング概論Ⅰ」の代替教員による変則的な集中講義が、授業内容の一部変更により実施された。2年次後期には、「カウンセリング概論Ⅱ」が予定通り開講された。3年次には、前期の「カウンセリング演習Ⅰ」、後期に「カウンセリング概論Ⅰ」を途中から担当した非常勤講師により、「カウンセリング演習Ⅱ」が開講された。「カウンセリング実務士」資格取得最終学年のプログラムがようやく順調に進行し始め、あとは4年次の「カウンセリング実習」のみとなった。ところが、4年次の始まりは、COVID-19対応としての、入学式をはじめとする学内行事の中止、前期授業開始の延期と初めての遠隔授業の実施、初等教育実習や保育実習などの学外実習の延期であった。「カウンセリング実習」も、学内行事の中止による学内実習の中止、対面から遠隔での授業へと変更せざるを得なかった。福祉施設での学外実習のみ、時期をずらしてであったが、例年通りに実施できた。

このように、学生たちは3度の対象喪失体験をしているとも言えよう。特に、広島豪雨災害では、学生たちが日常的に利用している校舎への土砂流入により、以前と変わらない利用ができるようになるまでには、かなりの月日を必要とした。この時の体験は、学生たちに何らかの思いを抱かせることになったのかもしれない。例えば、今回の福祉施設における実習で、地域での防災の会合に陪席し、意見を求められたときに、的確に答えることができたと施設職員の方から聞かれた。対象喪失の体験が生きてくるという事だろうか。

3. 「カウンセリング実務士」必修科目におけるコミュニケーション力の育成

「カウンセリング実務士」取得のための必修科目の共通する授業の目指すところは、コミュニケーション力の育成である。藤本・大坊(2007)⁵⁾は、スキルを階層構造としてとらえ、文化・社会への交流・適応において必要な能力の戦略、対人関係に主眼が置かれた社会性に関わる能力のソーシャル・スキル、言語・非言語による直接的コミュニケーションを行う能力のコミュニケーション・スキルの3つに分類し、コミュニケーション・スキルを基礎とし、その上位にソーシャル・スキル、さらに上位に戦略を位置付けている。藤本・大坊⁵⁾(p.348)の「スキルの扇」を図1に示した。藤本・大坊⁵⁾は、コミュニケーション・スキルの因子を階層構造として統合したEND-COREモデルを提案している。図1に示されたように、コミュニケーション・スキルには、対人スキルと基本スキルの2つの階層が仮定され、対人スキルは、「関係調整」、「自己主張」、「他者受容」の3因子、基本スキルには、「自己統制」、「表現力」、「解読力」の3因子から構成される。これら6因子のうち、「自己主張」は「表現力」の上位カテゴリーとして表出系、「他者受容」は「解読力」の上位カテゴリーとして反応系とし、「自己統制」と「関係調整」をマネジメントという共通の行動特性を持つことから管理系とし、これら3系列のうち表出系と反応系は概念的に対をなす。藤本・

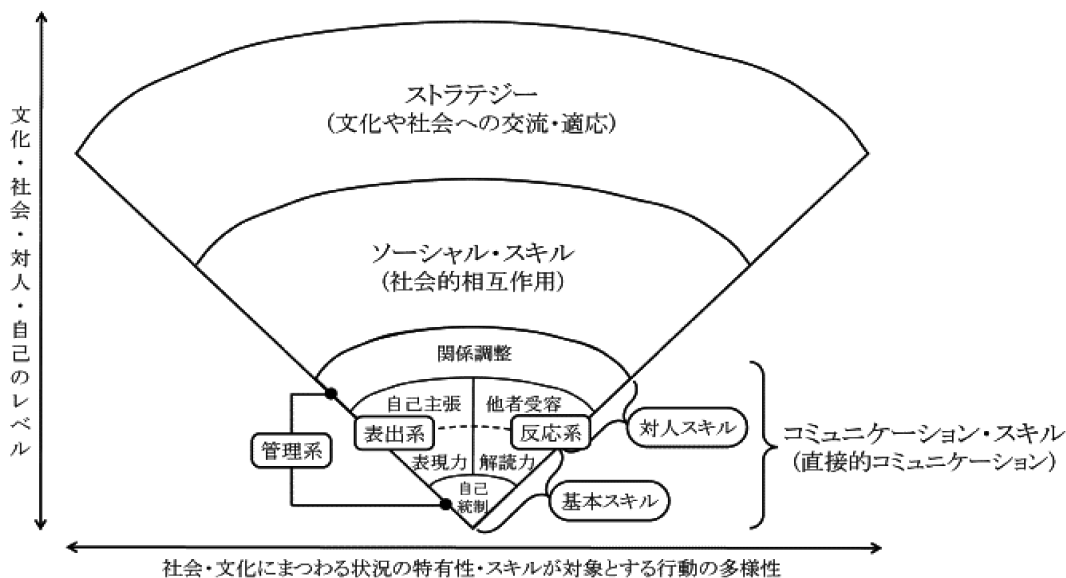


図1 スキルを階層構造として捉えた“スキルの扇” (藤本・大坊, 2007)⁵)

大坊⁵) は、この ENDCORE モデルの 6 因子 (スキル) のそれぞれにつき、4 つの下位概念を想定し、それに対応する項目を用意した、コミュニケーション・スキルを測定する尺度 ENDCOREs を作成した。ENDCOREs の項目は、「自己統制」に「欲求抑制」「感情統制」「道徳観念」「期待応諾」、「表現力」に「言語表現」「身体表現」「表情表現」「情緒伝達」、「解読力」に「言語理解」「身体理解」「表情理解」「情緒感受」、「自己主張」に「支配性」「独立性」「柔軟性」「論理性」、「他者受容」に「共感性」「友好性」「譲歩」「他者尊重」、「関係調整」に「関係重視」「関係維持」「意見対立対処」「感情対立対処」の構成からなり、24 項目の質問に対して 7 段階評価を求めるものであった。

藤本(2013)⁶) は、ENDCORE モデルの構造と ENDCOREs の再検証を行っている。その結果、おおむね藤本・大坊⁵) と同様の分析結果が得られたが、従来のモデルでは十分な適合性が得られなかったとして、モデルの修正を行っている。「関係調整」が全体としては 1 因子であるが、2 つの下位因子「対人関係マネジメント (関係重視と関係維持)」と「対人葛藤マネジメント (意見対立対処と感情対立対処)」に緩やかに分かれることから、潜在変数の「関係調整」が、観測変数の「対人関係マネジメント」と「対人葛藤マネジメント」に影響を与える形で示し、「表現力」と「解読力」の潜在因子として、潜在変数の「言語的能力」を設定した。藤本⁶) は、モデルの最適化によるモデルの骨子の変更はないとして、ENDCORE モデルにおいては、コミュニケーション・スキルが、6 スキル 24 サブスキルから構成され、図 1 に示されたように、これらが他のスキルと概念的に妥当な関連性を持ちながら、2 階層 3 系統の階層構造を成すと述べている。

コミュニケーション力は、日本生涯学習総合研究所(2018)⁷) によると、非認知能力の要素のひとつであり、幼児期から一貫して教育が必要とされており、発達段階に応じて高次に発達する能力と分類される。また、日本生涯学習総合研究所(2020)⁸) は、非認知能力の要素間の関連性を分析し、コミュニケーション力の視点から関連性をまとめ、要素概念図を作成している。コミュニケーション力が、他の様々な非認知能力の要素と関連していることが示されている。例えば、コミュニケーショ

ン力に関連する非認知能力の要素として、「問題解決力」や「批判的思考力」が挙げられているが、これらの要素は認知能力に区分されることもある（日本生涯学習総合研究所^{7),8)}）ことから、コミュニケーション力については、非認知能力だけでなく認知能力も考慮することが重要であると考えられる。コミュニケーション力または藤本・大坊⁵⁾の言うコミュニケーション・スキルの育成を考える時、幼児期から始まり、発達段階が進むにつれて、図1に示された「スキルの扇」（藤本・大坊⁵⁾）が広がっていくというイメージでとらえることができるかもしれない。

「カウンセリング実務士」必修科目におけるコミュニケーション力育成について、ENDCOREモデルから検討すると、「カウンセリング概論Ⅰ」は、図1に示された基本スキルの「自己統制」「表現力」「解読力」を、「カウンセリング演習Ⅰ」は、反応系の「他者受容」「解読力」を主に、「カウンセリング演習Ⅱ」は、表出系の「自己主張」「表現力」に重点を置きながら「関係調整」の下位因子の「対人関係マネジメント」にアプローチをすると考えられる。「カウンセリング実習」は、管理系の「関係調整」の下位因子「対人関係マネジメント」と「対人葛藤マネジメント」の両方を扱うと仮定される。「カウンセリング概論Ⅱ」のENDCOREモデル内への位置づけは難しく、むしろ日本生涯学習総合研究所^{7),8)}のコミュニケーション力と関連の深い「問題解決力」「批判的思考力」や、専門性・専門知識などの認知能力を育成することをねらいとしている。

藤本・大坊⁵⁾のコミュニケーション・スキルを測定する尺度ENDCOREsは、ENDCOREモデルの6スキルを構成する24サブスキルに1項目ずつ対応した24項目からなり、7件法で回答を求めている。内藤(2020)⁹⁾は、コミュニケーション・スキルを測定する尺度を用いた研究を検索し、最も多かった尺度としてENDCOREsを挙げ、20件の先行研究を概観している。その結果、医療系の学生を除く大学生では上級学年の方がより得点が高くなっていたことや、講義や実習前に測定された得点よりも、講義や実習後に測定された得点の方が高くなっていたことを報告している。内藤⁹⁾は、医療系の学生の評価が上級学年の方が低かったことについて、学外実習で思ったほどできなかったという体験が回答に反映されたのではないかと考察しているが、自己評価における客観性の問題であると考えられる。

藤本・大坊⁵⁾は、各メインスキルに直接対応した単項目からなる簡易版ENDCOREも作成しており、石川(2020)¹⁰⁾は、簡易版ENDCOREを参考に、大学生のオンライン上のコミュニケーション・スキル評価のためのループリック（4段階）を開発し、その有効性を検討している。石川¹⁰⁾の開発したループリックのように、学習成果を把握する具体的な方策としてのループリックの活用はもっと議論されてよいように思われる。本学では到達目標にループリック評価を取り入れており、シラバスに記載している。「カウンセリング概論Ⅰ」「カウンセリング演習Ⅱ」のループリックについては、表1、表2の中に示されている。それぞれの科目の学習成果の評価は、ループリックによりなされているが、ENDCOREモデルのような全体を俯瞰できるような概念図と、モデルに基づく測定のための尺度があれば、より効果的であると考えられる。測定が困難とされる非認知能力であるが、概念を明確にし、それに基づく評価方法を具体化することで、対応できるように思われる。

最終年度生のコミュニケーション力の育成については、想定外の事態が何度かあり、そのために従来とは異なるプログラムとなったが、実際に体験をすることで、いろいろな立場に立って物事を見つめることができたのではないかと推測される。体験の幅が広がるということは、それだけ多くの視点を持つことができることにつながると考えられる。特に今年度のCOVID-19対応下における

遠隔授業や学外実習などを通して、学生だけでなく筆者も、他者といかにつながるか、いかにコミュニケーションをとるかについて考えざるを得なかったように思う。今後、石川¹⁰⁾の言うように、オンライン上のコミュニケーション・スキルの育成が重要になってくるのであろう。

「カウンセリング実務士」必修科目それぞれの科目の到達目標について、学生によるルーブリック評価は、客観的な評価とどの程度の相関があるのかについては、これまで検討してこなかった。客観的な評価を行うための基準は、同じルーブリックを使用するとして、誰が、いつどのような場面を選択するかなど課題も多く残っている。さらに、コミュニケーションの双方向性を考慮するならば、例えば「傾聴・受容ができる」ことについて、一方が十分にできたと自己評価していても、他方が「十分傾聴・受容された」と評価しているとは限らないという不一致が生じる可能性もありうる。両方が「十分にできた」と評価しても、第三者からすればまた異なる評価も出てくるだろう。コミュニケーション力の測定が可能であるのか、そもそもコミュニケーション力とはどのように概念定義されるのかという問題に立ち返ることもなりかねない。

非認知能力の中でも、コミュニケーション力は重要であると考えられており、幼児期からの学習が必要であるとされている（日本生涯学習総合研究所^{7),8)}。高等教育卒業後も、コミュニケーション力は、教育・保育・福祉・医療など様々な社会分野で必要とされる能力の一つである。中でも福祉・医療分野におけるコミュニケーションの重要性が強調されることが多い。施・井上(2013)¹¹⁾の指摘するように、多職種間の連携が必要とされる医療現場において、コミュニケーションエラーの発生は重大な結果をもたらすことになる。山本・青戸・奥田・深田(2019)¹²⁾は、看護学生のコミュニケーション力向上のために、ENDCOREモデルを用いて、コミュニケーション・スキルの特徴を明らかにしている。今後、保育・教育に携わる学生のコミュニケーション力の育成のために、ENDCOREモデルを取り入れる必要があると考えられた。

4. おわりに

今年度で、幼児教育心理学科は終了となる。本学科は、保育や教育とともに心理学も学べるということで、他大学にはない独自のカリキュラム体系であったと思われる。「カウンセリング実務士」資格取得のためのカウンセリングの学習を通して、学生は到達目標を達成し、卒業後、社会において学習成果を発揮してくれるものと期待したい。コミュニケーション力は、実際の場面で様々な体験を通してこそ、向上していくものであると考えられる。コミュニケーション力は、藤本・大坊⁵⁾の“スキルの扇”のように、多様化する社会の中で生きていくために必要とされる、基礎となる能力であり、幼児期からの教育が重要となる。幼児教育心理学科において最後の「カウンセリング実務士」資格取得予定の16名の学生には、来年4月から保育・教育の現場で、子どもと保育者の相互作用を通して、子どものコミュニケーション力の育成に努めるとともに、自己を振り返り、自らのコミュニケーション力の向上を目指して欲しいと願っている。

謝辞

長年にわたり、本学におけるカウンセリング実務士養成にご尽力いただきました岩村聡先生（2018年5月逝去）に心から感謝します。また、2017年度入学生のカウンセリング実務士資格取得のために、授業をご担当くださいました社会福祉法人光生会 保育所まこと学園の東岸和子先生、学外実

習先としてお世話になりました社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会 多機能型事業所よこがわの職員の皆様に、心から感謝いたします。

文献

- 1) 一般財団法人 全国大学実務教育協会 (<https://www.jauch.gr.jp/zaigakusei/license/mentalcare.html>)
- 2) 文部科学省 (https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00016.html)
- 3) 首相官邸 (https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/actions/202004/16corona.html)
- 4) 山下京子 2021 新型コロナウイルス感染症対応下におけるピア・サポート活動の在り方. 広島女学院大学論集, 68集 (印刷中).
- 5) 藤本学・大坊郁夫 2007 コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層構造への統合の試み. パーソナリティ研究, 15, 3, 347-361.
- 6) 藤本学 2013 コミュニケーション・スキルの実践的研究に向けた ENDCORE モデルの実証的・概念的検討. パーソナリティ研究, 22, 2, 156-167.
- 7) 日本生涯学習総合研究所 2018 「非認知能力」の概念に関する考察. (<http://www.shogai-soken.or.jp/htmltop/toppage.files/non-cog2018.pdf>)
- 8) 日本生涯学習総合研究所 2020 非認知能力の概念に関する考察Ⅱ—「非認知能力」の要素における関連性の観点から— 改訂版. (<http://www.shogai-soken.or.jp/htmltop/toppage.files/non-cog2019-2.pdf>)
- 9) 内藤健一 2020 ENDCORES を用いたコミュニケーション・スキルの測定—現状と課題. 九州保健福祉大学研究紀要, 21, 11-20.
- 10) 石川真 2020 オンラインコミュニケーションスキル評価のためのルーブリックの開発と検討. 上越教育大学研究紀要, 40, 1, 1-10.
- 11) 施桂栄・井上枝一郎 2013 産業組織体におけるコミュニケーションエラーの発生メカニズムとその防止対策に関する研究. 関東学院大学人間環境学会紀要, 19, 3-17.
- 12) 山本陽子・青戸春香・奥田玲子・深田美香 2019 看護学生のコミュニケーションスキルの特徴—ENDCORE モデル, プロセスレコードの振り返りによる分析—. 米子医学雑誌, 70, 1-12.